

## 基調講演

### 「今、ここから始める共生への歩み」

#### ～里山づくりにおける連携と役割分担～

環境カウンセラー 臂 泰雄

伊勢崎市立殖蓮中学校の生徒により八寸権現山でヤマユリの植栽活動が行われている。この事業は平成16年より群馬県警察所管の子供たちの居場所づくり事業として始まった。その後、緑化フェアに参加するなど群馬県や伊勢崎市の予算をいただきながら継続され現在は殖蓮中学校の年行事として定着している。

当初から環境カウンセラーとしてこの事業に関わる中で学んだことは、様々な主体の連携の必要性と情報交換の大切さであった。そして各主体が同じことを行うのではなく得意の分野に特化して役割を果たすことが活動を広げる上で重要であることも実感した。

以上の経験をもとに現在の群馬県における自然環境の状況とこれからの保護活動について皆様とともに考えてみたい。

#### 1、はじめに

#### 2、これまでの活動

- 1) 殖蓮中学校の生徒とやまゆりの植栽（里山づくり）
- 2) 男井戸川の川づくり委員会で調整池をビオトープへ

#### 3、自然環境の現状について

- 1) 希少な生物種が消えてゆく
- 2) 耕作放棄地や管理されない里山の増加
- 3) 野生鳥獣による農作物や野生動植物の食害
- 4) 身近にある普通の自然が消えている
- 5) 自然環境の保護が必要

#### 4、自然環境保護に向けた課題は何か

- 1) 県民の理解は得られるか
- 2) 行政の理解は得られるか
- 3) 保護条例の策定が困難

5、自然環境保護の取り組みについて問題点は何か

- 1) 人材の発掘と育成（市民活動、環境団体、行政）
- 2) 保護条例の策定はできるのか
- 3) 経済性重視の社会環境を変えることができるか

6、問題点の解決に向けて

- 1) 環境教育の充実（習慣付ける）
- 2) 保護条例の制定  
希少種保護、外来種駆除、有害鳥獣の管理  
生態系保護、環境配慮の義務付け
- 3) 道路を作るように環境づくり（森林環境税に期待）

7、今後の取り組み

- 1) 連携と役割分担  
個人、団体、行政、情報交換の場、使命感の共有

参 考

「それは勿論大丈夫です。けれどもこゝの仕事といふものはそれはじつに責任のあるもので半分はいつ噴火するかわからない火山の上で仕事するものなのです。それに火山の癖といふものはなかなかわかることではないのです。むしろさういふことになると鋭いそして濁らない感覚をもった人こそわかるのです。たゞさういふ感覚をもった人がわかるだけなのです。私はもう火山の仕事は四十年もして居りましてまあイーハトーヴ一番の火山学者とか何とか云はれて居りますがいつ爆発するかどっちへ爆発するかといふことになるとそんなにはきはき云へないのです。そこでこれからの仕事はあなたは直観で私は学問と経験で、あなたは命をかけて、わたくしは命を大事にして共にこのイーハトーヴのためにはたらくものなのです。」

宮澤賢治「グスコンブドリの伝記」より

「この国土の装景家たちは  
この野の福祉のために  
まさしく身をばかけねばならぬ」

宮澤賢治「装景手記」より